

令和2年度事業報告

定款第39条(事業報告及び決算)に基づき、
本会の令和2年度の事業の報告を行うものである。

1. 会員現況
2. 組織及び業務の分担概要
3. 会議等の概要
 - (1) 総会、(2) 理事会、(3) 顧問・評議員会、(4) 各種委員会
4. 運営・広報事業の概要
5. 国際関係事業の概要
6. 催物事業の概要
7. 調査研究事業の概要
8. 表彰（功績賞、功労賞）の選考概要
9. 研究助成（研究助成部門、研究奨励部門）の選考概要

令和 2 年度事業報告

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、非常に制約のある中での活動となったが、会員のニーズを踏まえ、トンネル技術者にとって必要と考えられる各種事業を展開した。

運営・広報事業では、本会の活動指針である「JTA ビジョン」を踏まえ、新たな事業の実施方法等について検討した。また、会員からの様々な要望に応えるよう本会ホームページの充実や委員会活動成果を含めた図書を広く頒布した。

国際関係事業では、ITA の加盟国代表機関として関係諸国との技術交流に努めるとともに、国際会議の場で日本の技術力を世界に発信した。また、海外の文献・技術情報の収集・広報を行った。

催物事業においては、会員の資質向上を図るための研究発表会、講習会を、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、リモート開催を取り入れるなどして積極的に開催した。なお、現場研修会の実施は、当面中止することとした。

調査研究事業では、技術委員会の下で、トンネルや地下空間の建設および維持管理に関する当面の課題や会員からのニーズに応えた。受託業務においては、学識経験者からなる委員会において審議を重ね、委託者の期待に応える成果を挙げた。

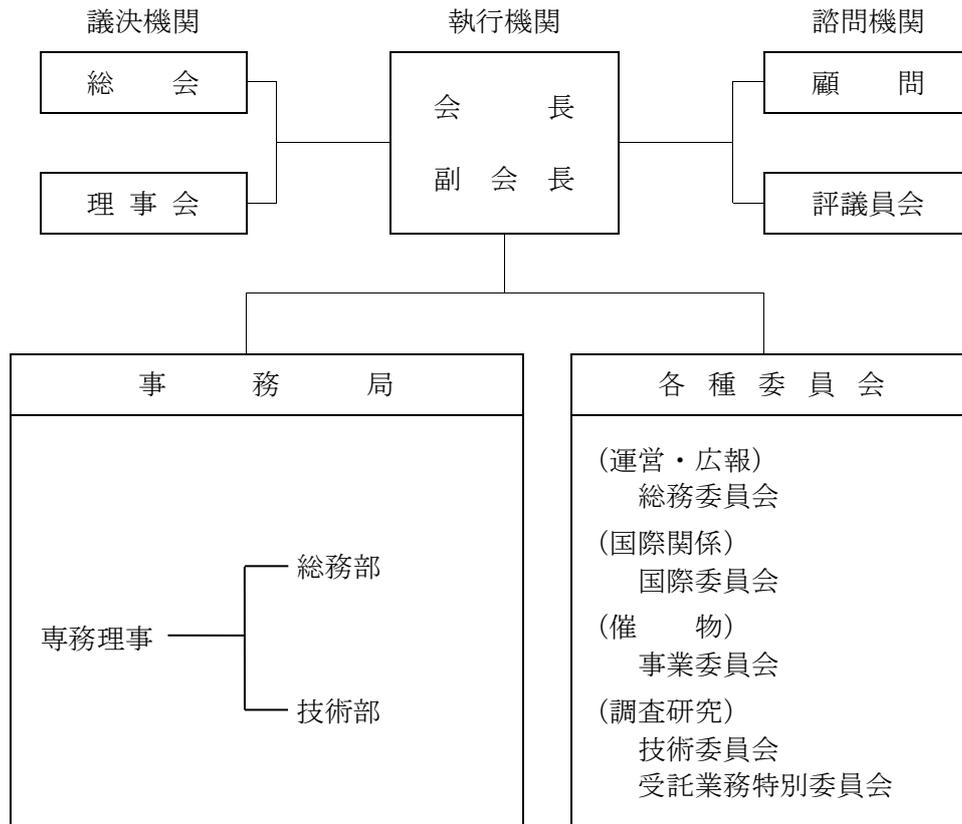
1. 会員現況

1975 年（昭和 50 年）以降 2021 年（令和 3 年）3 月までの会員現況は、次のとおりである。

会員種別	1975.3 (名)	1985.3 (名)	1995.3 (名)	2005.3 (名)	2015.3 (名)	2020.3 (名)	増 (名)	減 (名)	2021.3 (名)
正 会 員	160	2,098	1,901	2,054	1,286	1,236	86	▲ 95	1,227
団体会員	160	228	282	359	202	203	1	▲ 3	201
特級	—	3	3	3	1	1	0	0	1
特A級	—	—	28	24	23	23	0	0	23
A級	33	34	9	12	5	5	0	0	5
B級	14	16	20	16	10	10	0	0	10
C級	31	30	30	21	15	15	0	0	15
D級	82	145	192	283	148	149	1	▲ 3	147
個人会員	—	1,870	1,619	1,695	1,084	1,033	85	▲ 92	1,026
一般会員	—	—	—	—	866	813	45	▲ 53	805
推薦会員	—	—	—	—	206	206	37	▲ 35	208
特別会員	—	—	—	—	12	7	3	▲ 1	9
名誉会員	—	—	—	—	0	7	0	▲ 3	4
学生会員	—	—	—	—	—	—	8	0	8
賛助会員	—	—	—	—	169	205	41	▲ 44	202
計	160	2,098	1,901	2,054	1,455	1,441	135	▲ 139	1,437

摘要；1986年 特A級会員を設置、2007年 作業所単位会員を設置、2013年 作業所単位会員を廃止・賛助会員を設置
2020年 学生会員を設置

2. 組織及び業務の分担概要



(1) 議決機関

- 1) 総会を6月に開催し、協会の運営上重要な事項を、また、理事会を4回開催し、会務の執行に関する事項を審議した。理事、監事の名簿は別表のとおりである。

(4頁参照)

(2) 執行機関

- 1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐した。
- 2) 事務局では、専務理事が常勤し、会長及び副会長を補佐して会務を処理した。
- 3) 各種委員会については、4つの常設委員会の他、受託(請負等)業務に応じて6の特別委員会・検討会を設け、各委員会を開催して会務を分担した。

(3) 諮問機関

- 1) 顧問・評議員会を11月に開催し、会長の諮問に応じた。顧問・評議員の名簿は別表のとおりである。

(5頁参照)

一般社団法人日本トンネル技術協会
理事会名簿

令和3年3月末現在

No.	区 分	氏 名	所 属	役 職
1	会 長	谷口 博昭	(一財) 建設業技術者センター	理事長
2	副会長	小島 滋	前(独) 鉄道・運輸機構	
3	副会長	宮本 洋一	(一社) 日本建設業連合会	副会長 土木本部長
4	専務理事	時政 宏	(一社) 日本トンネル技術協会	専務理事
5	理 事	村尾 光弘	西日本高速道路(株)	取締役常務執行役員
6	理 事	桑原 徹郎	本州四国連絡高速道路(株)	取締役常務執行役員
7	理 事	土橋 浩	(一財) 首都高速道路技術センター	副理事長
8	理 事	高瀬 昭雄	(独) 鉄道・運輸機構	理事 【本会総務委員長】
9	理 事	大石 敬司	東京地下鉄(株)	鉄道本部改良建設部長
10	理 事	佐々木 健	東京都下水道局	計画調整部長
11	理 事	河田 孝志	清水建設(株)	常任顧問
12	理 事	白川 賢志	大成建設(株)	執行役員
13	理 事	寺内 伸	(株) 安藤・間	常務執行役員
14	理 事	見喜 一朗	(株) 鴻池組	専務執行役員
15	理 事	上総 周平	五洋建設(株)	執行役員副社長
16	理 事	山田 裕之	戸田建設(株)	常務執行役員
17	理 事	佐藤新一郎	飛島建設(株)	取締役専務執行役員
18	理 事	岡野利喜造	(株) フジタ	取締役常務執行役員
19	理 事	森 理太郎	三井住友建設(株)	常務執行役員
1	監 事	松崎 薫	東日本高速道路(株)	取締役常務執行役員
2	監 事	谷口 和善	鉄建建設(株)	取締役常務執行役員
3	監 事	永友 久信	東亜建設工業(株)	土木事業本部理事

顧問・評議員会名簿

令和3年3月末現在

No.	区 分	氏 名	所 属	役 職
1	顧 問	萩原 浩	(一社)日本トンネル技術協会	顧問
2	顧 問	小森 博	(一社)海外鉄道技術協力協会	顧問
3	顧 問	佐藤 信彦	(一社)日本トンネル技術協会	顧問
1	評議員	福井 勝則	東京大学	工学系研究科システム創成学専攻教授
2	評議員	日野 浩二	(独)水資源機構	ダム事業部長
3	評議員	伊勢田 敏	(一社)日本建設業連合会	常務執行役
4	評議員	真下 英人	(一社)日本建設機械施工協会	業務執行理事
5	評議員	藤井 元生	中日本高速道路(株)	取締役常務執行役員
6	評議員	関本 宏	阪神高速道路(株)	代表取締役専務執行役員
7	評議員	小山 宏	東日本旅客鉄道(株)	執行役員建設工事部長
8	評議員	谷本 俊哉	東京都交通局	建設工務部長
9	評議員	佐藤 俊哉	電源開発(株)	執行役員土木建築部長
10	評議員	佐藤 健人	(株)大林組	代表取締役副社長執行役員
11	評議員	高田 悦久	鹿島建設(株)	専務執行役員
12	評議員	飯田 廣臣	(株)奥村組	顧問
13	評議員	高嶋 正彦	(株)熊谷組	執行役員副社長
14	評議員	宮本 雅文	佐藤工業(株)	代表取締役社長
15	評議員	久保田政宏	(株)竹中土木	執行役員副社長
16	評議員	森藤 眞治	東急建設(株)	顧問
17	評議員	大林 東壽	東洋建設(株)	取締役常務執行役員
18	評議員	木村 雅哉	西松建設(株)	執行役員
19	評議員	井上 智	日本国土開発(株)	取締役専務執行役員
20	評議員	山崎 政俊	(株)不動テトラ	常務執行役員
21	評議員	中西 隆夫	前田建設工業(株)	取締役専務執行役員
22	評議員	元木 洋	青木あすなろ建設(株)	顧問
23	評議員	井上 基宏	(株)大本組	取締役常務執行役員
24	評議員	鈴木 明	(株)銭高組	執行役員
25	評議員	帷子 幸一	大豊建設(株)	土木本部土木部長
26	評議員	牧原 久利	若築建設(株)	取締役常務執行役員
27	評議員	田中 宏征	日本製鉄(株)	建材開発技術部長
28	評議員	井上 年史	JIMテクノロジー(株)	代表取締役副社長
29	評議員	鈴木 徹	中日本高速道路(株)	国際・技術事業部長 【本会国際委員長】
30	評議員	西村 和夫	東京都立大学	理事 【本会技術委員長】
31	評議員	入江 健二	メトロ開発(株)	代表取締役社長 【本会事業委員長】

3. 会議等の概要

(1) 令和2年度定時総会

日 時： 令和2年6月8日(月)16:00～16:40

場 所： 弘済会館 4階 萩

出席者： 出席社員 社員総員 1,239名中 900名(72.6%)

出席 34名、書面による議決権行使 174名(全ての議案に賛成)、
委任状 692名

出席役員 理事：谷口博昭、時政宏、村尾光弘、大石敬司、高田悦久

河田孝志、吉川大三 以上7名

監事：遠藤元一、久保田政宏、菊地眞 以上3名

(総会の成立)

時政専務理事が上記出席社員数を報告し、議決権総数の3分の2以上で決する特別決議事項があるが、議決権総数の3分の2以上の社員出席者数であることから、本日の総会は成立している旨を告げた。

(議長選出)

定款第15条の規定により、総会の議長を谷口博昭会長にお願いし、谷口博昭会長から挨拶があった。

(議事録署名者)

議長から、定款第19条第2項の規定により、総会議事録の署名人として、議長の他、出席会員の大石敬司氏、高田悦久氏にお願いしたい旨を諮ったところ、全員異議がなく了承、選出された。

(議 事)

谷口議長は、議案の議事に入る旨、宣した後、

(1)第1号議案(報告事項)令和元年度事業報告

(2)第2号議案(審議事項)令和元年度事業収支決算

上記2件を一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和元年度事業報告について、会員現況、協会組織の概要、会議等の概要、各種委員会の活動状況(運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業)の説明があった。

引き続き、定款第39条の規定に基づく定時総会の承認事項として、令和元年度事業の収支決算について、9種類の財務諸表等のうち、正味財産増減計算書を用いて説明があった。

総括として、経常収益が 227,659 千円、経常費用が 212,900 千円となったことから、当期一般正味財産増減額は 14,759 千円の増額で、一般正味財産残高は期首 134,614 千円から期末 149,374 千円に増額となった旨の説明があった。

引き続き、遠藤元一監事から監査結果の報告があった。

谷口議長が第1号議案について質問を求めたところ発言がなく、了承された。

次に、谷口議長が第2号議案について質問を求めたところ発言がなく、採決した結果、異議がなく、原案どおり承認された。

次に谷口議長から、

(3)第3号議案(報告事項)令和2年度事業計画

(4)第4号議案(報告事項)令和2年度事業収支予算

上記2件について一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和2年度事業計画について、運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業のそれぞれの概要についての説明があった。

次に、先の理事会で承認された令和元2年度事業収支予算について、損益ベースの会計予算書により説明があった。経常収益は前年度予算から 10,174 千円減額の 224,941 千円、経常費用は前年度予算から 1,891 千円減額の 233,224 千円とし、前年度と同様に収支均衡を計るものの、収益減により 8,283 千円の赤字予算となっている旨の説明があった。

谷口議長が第3号及び第4号議案について質問を求めたところ、発言がなく、了承された。

(5)第5号議案(報告事項)JTAビジョン及びJTAビジョン関連諸制度

(6)第6号議案(審議事項)定款の一部変更

(7)第7号議案(審議事項)会員規程、入会金及び会費規程の変更

上記3件に関して一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認されたJTAビジョン及びJTAビジョン関連諸制度について、その内容の報告があった。また、次の第6号議案及び第7号議案はその関連議案である旨の補足説明があった。

第6号議案は、JTAビジョンに関連して学生会員制度を創設するため、定款第5条(法人の構成員)及び第7条(会費)に学生会員を加える変更を行うものである旨の説明があった。

また、第7号議案は、会員規程の第3条(種別)について、定款の一部変更に関連して変更するとともに、入会金及び会費規程の第3条(年会費)について、本会の財政的基盤を強化するため35年ぶりに団体会員等の会費を改定し、かつ創設する学生会員の年会費を定めるために変更を行うものである旨の説明があった。

谷口議長が第5号議案について質問を求めたところ、発言がなく、了承された。

次に、谷口議長が第6号議案及び第7号議案について質問を求めたところ発言がなく、第6号議案については特別決議事項であることを踏まえ採決した結果、異議がなく、また第7号議案についても採決した結果、異議がなく、第6号議案及び第7号議案は原案どおり承認された。

(8)第8号議案(審議事項)理事及び監事の選任

谷口議長の指示により、事務局から以下の説明があった。

定款第12条第2号、第21条第1項の規定により、理事及び監事の選任を諮るものである。本総会終了を以って任期満了となる理事の時政宏氏、高田悦久氏、高嶋正彦氏、森山越郎氏の4名、監事の久保田政宏氏、及び辞任の申し出があった理事の藤井元生氏、谷本俊哉氏、山本喜裕氏、中西隆夫氏の4名、監事の遠藤元一氏、菊地眞氏の2名に対し、先の理事会で推薦された理事7名及び監事3名の候補者の紹介があった。

谷口議長が第8号議案について質問を求めたところ発言がなく、推薦された候補者を一名ずつ諮った結果、それぞれ異議がなく、下記のとおり選任が承認された。

再任の理事:時政宏氏

新任の理事:桑原徹郎氏、佐々木健氏、白川賢志氏、上総周平氏、佐藤新一郎氏、

岡野利喜造氏

新任の監事:松崎薫氏、谷口和善氏、永友久信氏

(その他)

事務局から令和2年度の事業を推進するにあたり、先の理事会で承認された常設委員会の委員長の紹介があった。

総務委員長は理事の高瀬昭雄氏(留任)、国際委員長が評議員の中村武夫氏(留任)、事業委員長が評議員の入江健二氏(留任)、技術委員長が評議員の西村和夫氏(留任)である。

(閉会)

以上をもって本日の議事が終了したので、谷口議長は閉会を宣した。

(2) 理 事 会

令和2年度第1回 理事会(書面審議)

令和元年5月15日(金)開催 理事20名、監事3名 計23名出席

- ①令和2年度の理事、監事、及び評議員
- ②特別会員の推薦
- ③令和2年度定時総会議案(案)
- ④JTAビジョン関連諸規程の制定
- ⑤常設委員会委員長の選任

令和 2 年度第 2 回 理事会(書面審議)

令和 2 年 6 月 15 日(月)開催 理事 19 名、監事 3 名 計 22 名出席

①専務理事の選定

専務理事:時政 宏

令和 2 年度第 3 回 理事会

令和 2 年 11 月 10 日(火)開催 理事 13 名、監事 3 名 計 16 名出席

①常設委員会(国際委員会)委員長の交替

委員長辞任:中村 武夫 委員長選任:鈴木 徹

②理事、評議員の交替

理事辞任:吉川 大三 理事(候補者)選任:寺内 伸

評議員辞任:今井 政人 評議員選任:小山 宏

評議員辞任:西海 健二 評議員選任:田中 宏征

評議員辞任:中村武夫 評議員選任:鈴木 徹

③令和 3 年度定時総会開催日の選定

④JTA 表彰の募集

令和 2 年度第 4 回 理事会

令和 3 年 3 月 17 日(水)開催 理事 12 名、監事 3 名 計 15 名出席

①令和 3 年度 JTA 功績賞、功労賞の受賞者の決定

②令和 3 年度理事、監事、評議員の構成

③令和 3 年度定時総会議案要綱

(3) 顧問・評議員会

令和 2 年度第 1 回顧問・評議員会 令和 2 年 11 月 10 日(火)開催

顧問 1 名、評議員 22 名、その他 2 名 計 25 名出席

①令和 2 年度事業活動及び上半期収支現況

②令和 3 年度研究助成の募集

(4) 各種委員会（令和2年度開催状況）

委員会名	構成 人員 (人)	開催 回数 (回)	出席 人数 (人)	委員会名	構成 人員 (人)	開催 回数 (回)	出席 人数 (人)
1 総務委員会	50	17	215	5 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会	119	5	213
委員会	15	2	21	委員会	50	1	53
企画運営幹事会	9	3	27	幹事会	35	1	22
広報小委員会	7	0	0	機械化施工小委員会	34	3	138
会誌WG	14	12	167	6 効率的点検特別委員会	26	9	146
ホームページWG	5	0	0	7 盤ぶくれ対策特別委員会	34	10	267
2 国際委員会	84	15	157	8 改築設計施工技術特別委員会	28	10	206
委員会	7	0	0	9 既設構造物と新設構造物との接合等に関する設計・施工法検討委員会	20	1	17
I T A小委員会	17	2	29	10 西武鉄道新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会	6	1	11
技術統括WG	10	1	8				
海外情報小委員会	7	0	0				
文献WG	22	0	0				
ニュースWG	9	12	120				
対外広報WG	12	0	0				
3 事業委員会	19	3	62				
4 技術委員会	169	17	277				
委員会	17	1	20				
共通技術小委員会	15	0	0				
資機材検索リスト運営WG	6	0	0				
山岳工法小委員会	21	1	23				
支保WG	27	3	64				
地山評価WG	16	4	52				
防・排水工WG	13	3	39				
都市トンネル小委員会	19	1	21				
安全環境小委員会	19	1	21				
保守管理小委員会	16	3	37				
				合 計	555	88	1,571

(注)メール審議、持ち回り審議を含む。

(委員会数と構成員延べ人数)

区分	委員会	小委員会	幹事会 WG	計	延べ 人数
常設	4	8	11	23	322
特別	6	1	1	8	233
計	10	9	12	31	555

令和2年度各種委員会名簿

注) ◎幹事長兼任 ○幹事兼任 () 前任者

1.総務委員会(15)

委員長	高瀬 昭雄
副委員長	高田 悦久
委員	森戸 義貴
〃	(岡村 次郎)
〃	酒井 浩二
〃	(杉野 浩茂)
〃	梅木 秀郎
〃	(水口 和之)
〃	土橋 浩
〃	小山 宏
〃	(今井 政人)
〃	大石 敬司
〃	谷本 俊哉
〃	佐藤 健人
〃	高嶋 正彦
〃	白川 賢志
〃	(谷山 二郎)
〃	河田 孝志
〃	久保田政宏
〃	谷口 和善
〃	(菊地 眞)

1.1 企画運営幹事会(9)

幹事長	梅木 秀郎
〃	(水口 和之)
副幹事長	吉富 幸雄
幹事	長谷川正明
〃	大津 敏郎
〃	本田 諭
〃	伊藤 聡
〃	西岡 和則
〃	平井 卓
〃	(川崎 哲人)
〃	内藤 将史

1.2 広報小委員会(7)

委員長	吉村 正
委員	中野 清人
〃	山田 隆昭
〃	野城 一栄
〃	小貫 勝彦
〃	河越 勝
〃	須藤 敏明

1.2.1 会誌 WG(14)

主査	山田 隆昭
幹事	野坂 周子
〃	(吉岡 大蔵)
〃	福山 恵夫
〃	中野 清人
〃	坂田 聡
〃	谷口 信博
〃	西岡 和則
〃	金岡 幹
〃	吉富 幸雄
〃	澤 徹
〃	久多羅木吉治
〃	松原 利之
〃	森 正彦
協力者	山本 育徳

1.2.2 ホームページWG(5)

主査	須藤 敏明
幹事	伊藤 哲
〃	青柳 隆浩
〃	安藤 拓
〃	平井 卓

2.国際委員会(7)

委員長	鈴木 徹
〃	(中村 武夫)
委員	福井 勝則
〃	砂金 伸治
〃	竹居 雅彦
〃	清水 健志
〃	福本 勝司
〃	石田 積

2.1 I T A小委員会(17)

委員長	砂金 伸治
委員	杉本 光隆
〃	岸田 潔
〃	日下 敦
〃	吉川 直孝
〃	藤村 智
〃	山崎 哲也
〃	真下 英人
〃	北村 義宜
〃	小野 知義

委員	淡路 動太
〃	大塚 勇
〃	満尾 淳
〃	河田 皓介
〃	西尾 陽平
〃	檜館 学
〃	保利 彰宏

2.1.1 技術統括 WG(10)

主査	砂金 伸治
幹事	山下 健司
〃	淡路 動太
〃	新宮 康之
〃	辻川 泰人
〃	小出 孝明
〃	江口 康則
〃	山岡 一雅
〃	河田 皓介
〃	小松原 涉

2.2 海外情報小委員会(7)

委員長	福井 勝則
委員	清水 健志
〃	日下 敦
〃	堀口 陽子
〃	新井 泰
〃	秋好 賢治
〃	横尾 敦

2.2.1 海外文献 WG(22)

主査	福井 勝則
幹事	日下 敦
〃	萩原 秀樹
〃	石原 陽介
〃	新井 泰
〃	堀口 陽子
〃	岡 滋晃
〃	新 孝一
〃	仲山 貴司
〃	山下 健司
〃	今泉 和俊
〃	藤原 浩一
〃	尾畑 洋
〃	河上 清和
〃	瀬谷 正巳

幹事 谷 卓也
 // 畑生 浩司
 // 満尾 淳
 // 中山 卓人
 // 米田 新
 // 野間 達也
 // 久慈 雅栄

2.2.2 ニュースWG(9)

主査 清水 健志
 幹事 前田 龍一
 // 朝隈 和也
 // 天童 涼太
 // (五味 春香)
 // 横畑 友幹
 // 内藤 雅人
 // 篠原 慶二
 // 山下 高俊
 // 笹田 俊之

2.2.3 対外広報WG(12)

主査 清水 健志
 幹事 竹居 雅彦
 // 浅井 力矢
 // 日下 敦
 // 小川 隆文
 // 菅原 千尋
 // 内海 和仁
 // 本田 諭
 // 秋好 賢治
 // 池田 廉
 // (北村 義宜)
 // 尾畑 洋
 // 西村 知晃

3.事業委員会(19)

委員長 入江 健二
 委員 野坂 周子
 // (吉岡 大蔵)
 // 中野 清人
 // 佐原 圭介
 // 嶋田 司
 // 長野 克哉
 // 葛西 孝周
 // 河邊 信之
 // 西浦 秀明
 // 岡村 正典
 // (橘高 豊明)

委員 西岡 和則
 // 河越 勝
 // 金岡 幹
 // 友野 雄士
 // 宇田 誠
 // 久多羅木 吉治
 // 内藤 将史
 // 築地 功
 // 森田 篤

4.技術委員会(17)

委員長 西村 和夫
 委員 杉本 光隆
 // 日下 敦
 // 市場 一好
 // 佐原 圭介
 // 八木 弘
 // 中野 清人
 // 小山 宏
 // 永田 憲二
 // 葛西 孝周
 // 木梨 秀雄
 // 中村 誠喜
 // 西岡 和則
 // 手塚 仁
 // 安藤 拓
 // 友野 雄士
 // 内藤 将史

4.1 共通技術小委員会(15)

委員長 市場 一好
 委員 梅林 幾彦
 // 日下 敦
 // 中野 清人
 // 松永 卓也
 // 藤沼 愛
 // 染次 治仁
 // 葛西 孝周
 // 吉本 正浩
 // 金岡 幹
 // 築地 功
 // 大谷 達彦
 // 河邊 信之
 // 篠原 慶二
 幹事 高氏 昇

4.1.1 資機材検索リスト運営WG(6)

主査 松永 卓也
 副主査 永田 憲二
 委員 鈴木 正憲
 // 中田 晴久
 // 越田 健
 // 篠原 慶二

4.2 山岳工法小委員会(21)

委員長 佐原 圭介
 特別委員 上野 光
 特別委員 中野 清人
 委員 日下 敦
 // 山崎 哲也
 // (海瀬 忍)
 // 水野光一朗
 // 森岡 宏之
 // 野城 一栄
 // 河邊 信之
 // 木梨 秀雄
 // 徳永 満善
 // (橘高 豊明)
 // 青柳 隆浩
 // 手塚 仁
 // 谷川 隆之
 // 石井 三郎
 // 友野 雄士
 // 築地 功
 // 大谷 達彦
 // 末松 幸人
 // 森田 篤
 // 鷹觜 智司

4.2.1 支保WG(27)

主査 佐原 圭介
 委員 菊地 浩貴
 // 上谷 明生
 // 森岡 宏之
 // 稲葉 秀雄
 // 河村 巧
 // 浜田 元
 // 古家 義信
 // 村上 和哉
 // (横尾 敦)
 // 青木 宏一
 // 富澤 直樹
 // 大森 楨敏

委員 谷川 隆之
 〃 石井 三郎
 〃 須藤 敏明
 〃 (大島 基義)
 〃 川島 義和
 〃 三浦 雅也
 〃 岩城 信也
 〃 内藤 将史
 〃 熊谷 幸樹
 〃 鈴木 健
 〃 山仲 徹
 〃 野間 達也
 〃 水谷 和彦
 〃 鎌田 修司
 〃 國村 省吾
 〃 五十嵐数馬
 〃 (入内島克明)

4.2.2 地山評価WG(16)

主査 上野 光
 顧問 木谷日出男
 委員 小林 大助
 〃 (前川 和彦)
 〃 河村 祥一
 〃 田中 姿郎
 〃 奥澤 康一
 〃 栗原 啓丞
 〃 (宮嶋 保幸)
 〃 片山 政弘
 〃 淡路 動太
 〃 小山 俊滉
 〃 山下 雅之
 〃 永井 誠二
 〃 小熊 登
 幹事 石濱 茂崇
 〃 中谷 匡志
 〃 高馬 崇

4.2.3 防・排水工 WG(13)

主査 中野 清人
 委員 巽 義知
 〃 藤村 智
 〃 鈴木 雅行
 〃 斎藤 有佐
 〃 手塚 康成
 〃 上岡 真也
 〃 小原 伸高
 〃 辻川 泰人

委員 塚本 祐司
 〃 渡部 直人
 〃 四谷 敦
 幹事 沖原 穂高
 〃 (村田 雄輝)

4.3 都市トンネル小委員会(19)

委員長 葛西 孝周
 委員 佐原 圭介
 〃 吉村 正
 〃 本田 諭
 〃 林田 岳士
 〃 大塚 信一
 〃 岡 滋晃
 〃 松原 健太
 〃 福居 雅也
 〃 中川 雅由
 〃 河越 勝
 〃 赤津 基博
 〃 中村 隆良
 〃 高村勝之進
 〃 久多羅木吉治
 〃 稻田 義和
 〃 安光 立也
 〃 片岡希誉司
 〃 五十嵐英史

4.4 安全環境小委員会(19)

委員長 中野 清人
 委員 梅林 幾彦
 〃 森本 智
 〃 大村 倫久
 〃 長谷川正明
 〃 吉川 直孝
 〃 小林 大助
 〃 (前川 和彦)
 〃 沼上 寿
 〃 斉藤 仁
 〃 嶋本 敬介
 〃 尾畑 洋
 〃 谷川 隆之
 〃 三原 泰司
 〃 浅野健一郎
 〃 岡山 孝
 〃 山田 秀雄
 〃 田辺 昭博
 〃 伊藤 由明

委員 安光 立也

4.5 保守管理小委員会(16)

委員長 小山 宏
 〃 (今井 政人)
 幹事長 下山 貴史
 委員 梅林 幾彦
 〃 日下 敦
 〃 大津 敏郎
 〃 森 健太郎
 〃 沼田 敦
 〃 玉松潤一郎
 〃 染次 治仁
 〃 伊藤 忠司
 〃 森岡 宏之
 〃 野城 一栄
 〃 永田 常雄
 〃 (福井 正規)
 〃 北川 真也
 〃 川端 康夫
 幹事 籠 雅貴

5.北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会(50)

委員長 三上 隆
副委員長 小山 幸則
委員 大島 洋志
" 朝倉 俊弘
" 東畑 郁生
" 川村 信人
" 五十嵐敏文
" 藤井 義明
" 岸田 潔
" 太田 岳洋
" 倉橋 稔幸
" 大津 直
" 北川 修三
" 小西 真治
" 岡野 法之
" 野城 一栄
" 島村 昭志
オブザーバー 保田 尚俊
" 田村 桂一
協力者 深沢 成年
" 渡邊 修
" 小野 颯司
" 岡田 良平
" 村上 明
" 藤原 哲男
" 玉井 真一
" 佐原 圭介
" 千代 啓三
" 依田 淳一
" 伊藤 勝美
" 阿部 信介
" 南 邦明
" 萩原 秀樹
" 魚津 宗
" 佐々木 裕
" 小林 等
" 野口 昌美
" 落合 洋則
" 伊藤 浩
" 金子 伸生
" 石山 民一
" 高橋源太郎
" 斉藤 道真
" 才神 貴幸
" 石井 秀和

協力者 今井 寛樹
" 吉村 直人
" 石川 大輔
" 橋本 浩市
" 松本 浩司

5.1 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会 幹事会(35)

幹事長 岸田 潔
幹事 勝見 武
" 太田 岳洋
" 小西 真治
" 岡野 法之
" 野城 一栄
" 島村 昭志
オブザーバー 保田 尚俊
" 菊本 統
協力者 小野 颯司
" 村上 明
" 藤原 哲男
" 佐原 圭介
" 千代 啓三
" 伊藤 勝美
" 阿部 信介
" 南 邦明
" 萩原 秀樹
" 魚津 宗
" 佐々木 裕
" 小林 等
" 野口 昌美
" 落合 洋則
" 伊藤 浩
" 金子 伸生
" 石山 民一
" 高橋源太郎
" 斉藤 道真
" 才神 貴幸
" 石井 秀和

5.2 北海道新幹線、機械化施工小委員会(34)

委員長 小山 幸則
委員 杉本 光隆
" 中川 光弘
" 五十嵐敏文
" 藤井 義明
" 勝見 武
" 岸田 潔
" 岩波 基
" 太田 岳洋
" 上原 元樹
" 津野 究
" 小西 真治
" 島村 昭志
" 野々村政一
" 野口 守
オブザーバー 菊本 統
" 上澤 真平
協力者 深沢 成年
" 渡邊 修
" 小野 颯司
" 岡田 良平
" 村上 明
" 藤原 哲男
" 玉井 真一
" 佐原 圭介
" 千代 啓三
" 依田 淳一
" 萩原 秀樹
" 魚津 宗
" 小林 等
" 金子 伸生
" 斉藤 道真
" 吉村 直人
" 松本 浩司

6.効率的点検特別委員会(26)

委員長 西村 和夫
副委員長 砂金 伸治
委員 石田 哲也
" 森本 智
" 藤田 一宏
" 大津 敏郎
" 八木 弘
" 小林 康範
" ◎ 松岡 茂
" ○ 鈴木 雅行

委員○ 秋好 賢治
 // ○ 手塚 康成
 // ○ 須藤 敏明
 // ○ 上岡 真也
 // ○ 西脇 敬一
 // ○ 平間 昭信
 // ○ 大谷 達彦
 // ○ 土屋 智史
 // ○ 望月 誠一
 // ○ 重田 佳幸
 // ○ 高橋 幸一
 // ○ 岡部 正
 協力者 中野 清人
 // 山崎 哲也
 // 沖原 穂高
 // (村田 雄輝)
 // 上谷 明生

**7.盤ぶくれ対策特別委員会
(34)**

委員長 西村 和夫
 副委員長 砂金 伸治
 委員 蔣 宇静
 // 日下 敦
 // 嶋本 敬介
 // 藤田 一宏
 // 大津 敏郎
 // 荻野 政行
 // (前川 秀人)
 // 八木 弘
 // 岩尾 哲也
 // 山田 隆昭
 // ◎ 太田 裕之
 // ○ 河邊 信之
 // ○ 谷口 信博
 // ○ 宮嶋 保幸
 // ○ 青木 宏一
 // ○ 安藤 拓
 // ○ 小原 伸高
 // ○ 川島 義和
 // ○ 川端 康夫
 // ○ 盛重 知也

委員○ 小出 孝明
 協力者 遠藤 皓介
 // 山崎 敏史
 // 北村 元
 // 吉田 泰規
 // 福島 淳
 // 勘定 茂
 // 田上 涼平
 // 桐野 義忠
 // 中野 清人
 // 山崎 哲也
 // 小林 大助
 // 沖原 穂高
 // (村田 雄輝)

8.改築設計施工技術特別委員会(28)

委員長 砂金 伸治
 委員 保田 尚俊
 // 林 久資
 // 小泉 悠
 // (日下 敦)
 // 嶋本 敬介
 // 寺戸 秀和
 // 大津 敏郎
 // 八木 弘
 // 岩尾 哲也
 // 山田 隆昭
 // ◎ 鈴木 雅行
 // ○ 古家 義信
 // ○ 村上 浩次
 // ○ 青木 宏一
 // ○ 福田 毅
 // ○ 須藤 敏明
 // ○ (板垣 賢)
 // ○ 鈴木 健
 // ○ 今村 新吾
 // ○ (辻川 泰人)
 // ○ 森田 篤
 協力者 遠藤 皓介
 // 北村 元
 // 吉田 泰規

協力者 勘定 茂
 // 田上 涼平
 // 中野 清人
 // 山崎 哲也
 // 菅原 千尋
 // (村田 雄輝)
 // 沖原 穂高

9.既設構造物と新設構造物との接合等に関する設計・施工法検討委員会(20)

委員長 二羽淳一郎
 委員 岩波 基
 // 渡辺 忠朋
 // 野焼 計史
 // 大石 敬司
 // 荻野 竹敏
 // 河畑 充弘
 // 伊藤 聡
 // 小西 真治
 // 入江 健二
 // 西村 高明
 // 岡本 大
 // 仲山 貴司
 // 室谷 耕輔
 // 清水 幸範
 事務局 吉村 正
 // 新井 泰
 // 岡ノ谷圭亮
 // 水上 博之
 // 田中 篤史

10.西武鉄道新宿線(中井駅～野方駅間)連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会(6)

委員長 小山 幸則
 委員 大石 敬司
 // 花井 徹夫
 // 加藤 直宣
 // 角 秀行
 // 陰山 健司

常設委員会および特別委員会の人員数

構成延べ人員	555名
実人員	326名

注；前任者を除く。

4. 運営・広報事業の概要

総務委員会委員長 高瀬 昭雄

本会の事業の運営方針や広報活動について全体調整を行うとともに、企画運営幹事会及び広報小委員会において、具体的な方策を検討した。また、国内外からの技術協力や協賛・後援依頼について検討した。

- ①本会の活動指針である「JTA ビジョン」を踏まえ、新たな事業の実施方法等について検討した。
- ②令和3年度事業計画案及び予算案を検討した。

(1) 企画運営幹事会

幹事長 梅木 秀郎

- ③前年度に策定した JTA ビジョンを踏まえ、研究助成、JTA 表彰等の 5 つの新たな事業の実施に向けて具体策を検討した。

(2) 広報小委員会

委員長 吉村 正

- ④ホームページ及び会誌「トンネルと地下」等により、広報活動の充実に努めた。
- ⑤各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るため、頒布図書資料(17頁参照)の広報活動に努めた。

5. 国際関係事業の概要

国際委員会委員長 鈴木 徹

ITA 活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力を努めた。

- ①ITAを通じてわが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、各種作業部会(WG)に参加するなど ITA の場の活用に努めた。
- ②WTC2020 での共同技術展示について検討を実施した。

(1) ITA小委員会

委員長 砂金 伸治

- ③2020年9月にバーチャルで開催された ITA 総会ならびに WTC(世界トンネル会議)への出席と対応方針について調整するとともに、総会にリモート参加した。会議結果報告は会誌2021年2月号に掲載した。
- ④わが国のトンネル技術の情報発信のため、WTC2020 バーチャル技術展示会で、会員企業と共同で技術展示を行った。
- ⑤2021年2月にバーチャルで開催された ITA 臨時総会への出席と対応方針について調整するとともに、総会にリモート参加した。

(2) 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則

- ⑥トンネル技術に関する海外の雑誌のニュースおよび記事を抽出、翻訳して会誌に掲載した。
- ⑦わが国の技術を積極的に世界に広報するため、「Tunnelling Activities in Japan 2020」を編集し、刊行した(令和2年12月)

頒布図書一覧

令和2年度は、これまでの研究成果を主とした下記図書資料 280部 を頒布した。

刊行年度	図書番号	図 書 名	頒布部数	残部数
1985	6008	トンネル工事の安全－NATM編－	-	55
1990	90001	大深度地下利用技術(邦文)	-	8
	90002	大深度地下利用技術(英文)	-	7
1992	92006	トンネル工事の安全－斜坑・立坑編－	1	32
1998	98003	トンネル工事の安全－山岳トンネル機械掘削編－	-	9
1999	99001	トンネル工事の安全－山岳発破作業編－	1	9
2000	200010	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－テキスト－	-	26
	200011	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－モデル検討－	1	51
2001	200104	電力用立坑の性能照査型設計手引	1	15
	200105	覆工コンクリート施工の手引き	1	72
2002	200207	SUS9 国際会議	-	20
2003	200303	性能照査型ガイドライン講習会	2	29
2005	200508	トンネル技術白書－山岳トンネル施工技術の現況と変遷－	1	99
2010	201003	第66回施工体験発表会(山岳)	1	20
	201004	第67回施工体験発表会(都市)	-	24
2014	201401	トンネル年報 2014	2	45
2015	201501	トンネル年報 2015	2	44
	201504	都市部近接施工ガイドライン	44	106
2016	201601	トンネル年報 2016	2	46
2017	201701	トンネル年報 2017	3	46
2018	201801	トンネル年報 2018	3	51
	201805	山岳トンネル工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	14	218
	201806	シールド工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	18	285
2019	201901	トンネル年報 2019	7	127
2020	202001	トンネル年報 2020	27	243
	202005	トンネル管理技術者のための維持管理に関するQ&A	149	211
合 計 26 件			280	1,898

6. 催物事業の概要

事業委員会委員長 入江 健二

協会の事業活動に対して、会員をはじめ広く一般の理解と関心を高め、その参加・協力を得るとともに、当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上に努めた。

新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、リモート開催を行うなど、実施に努めた。

(1) 現場研修会

毎年随時実施している国内の鉄道、道路、電力、地下鉄、下水道等各種トンネル工事現場での研修会(見学会)については、新型コロナウイルス感染状況を勘案し、当面中止している。

(2) 施工体験発表会

第 86 回施工体験発表会は、山岳トンネルについて、「課題克服に取り組んだトンネル工事－新技術、創意工夫、周辺環境への配慮－」を、また第 87 回施工体験発表会は、都市トンネルについて、「都市における各種制約下でのトンネル、地下構造物工事－新設、改良・再構築の施工事例－」を、それぞれ課題として実施した。なお、優秀発表者に対する表彰を実施することとし、受賞者を選考した。(20 頁を参照)。

なお、開催については、コロナ禍を踏まえ 12 月に延期し、会場とリモート参加を併用したハイブリッド型で開催した。

(3) トンネル技術ステップアップ研修会

トンネル実務経験5～10年程度の中堅技術者を対象としたトンネル技術ステップアップ研修会(山岳部門、シールド部門)は、今年度は開催を見送った。

(4) 講習会・講演会等

「山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編)」、および「山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)」を、リモート形式で 12 月及び 2 月に開催した。

なお、「トンネル技術者のための地相入門講習会」は、当初 10 月に開催することとしていたが、中止した。

(5) 海外技術調査

海外のトンネル施工技術、施工状況を把握するため、オーストリア、オランダを中心とした海外技術調査を令和 2 年 11 月に開催することとしていたが、世界的な新型コロナウイルス感染状況を鑑みて中止した。

令和2年度各種催物開催実績

催物名	開催日	参加者数	開催場所	CPD 取得単位
【現場研修会】 ー (新型コロナウイルス感染状況を勘案して企画・実施)	当面中止			
【施工体験発表会】 2回 第86回(山岳)「課題克服に取り組んだトンネル工事ー新技術、創意工夫、周辺環境への配慮ー」 第87回(都市)「都市における各種制約下でのトンネル、地下構造物工事ー新設、改良・再構築の施工事例ー」	2020.12.7	133	東京 ハイブリッド型	5.5
	2020.12.8	73	東京 ハイブリッド型	2.5
【講習会・シンポジウム】 2回 トンネル技術ステップアップ研修会「山岳部門」 トンネルステップアップ研修会「シールド部門」 地相入門講習会 山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編) 山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)	中止 中止 中止			
	2020.12.23	39	リモート	6.2
	2021.2.5	39	リモート	5.9

注;施工体験発表会はハイブリッド型(会場とリモート参加を併用)で、講習会はリモートで開催。

令和2年度施工体験発表会 優秀発表者(審査結果)

第86回(山岳)ならびに第87回(都市)施工体験発表会に係る発表者の表彰について審査した結果、下記のとおりとなった(詳細は会誌2021年5月号に掲載)。

第86回(山岳)施工体験発表会

「課題克服に取り組んだトンネル工事—新技術、創意工夫、周辺環境への配慮—」

開催日:令和2年12月7日(月) 開催場所:機械振興会館(リモート併用開催) 発表者:13名

<最優秀賞>

受賞者 木野村 有亮 (株)大林組 四国支店明神山トンネル工事事務所主任
発表論文 小土かぶり土砂地山における支障物件点在箇所条件下での山岳トンネルの施工—新名神 四日市トンネル—

<優秀賞>

受賞者 戸澤 信吾 飛鳥建設(株) 北陸支店白山甚之助Ⅲ期作業所工事主任
発表論文 標高2000mの国立公園特別保護地区内における排水トンネルの施工—甚之助谷地すべり対策排水トンネル工事—

<優秀賞>

受賞者 小山 武志 (株)大林組 大阪本店犬打峠トンネルJV工事事務所所長
発表論文 各種前方探査を組み合わせた地山評価により長大トンネルを突破—北陸新幹線 新北陸トンネル(奥野々工区)—

<奨励賞>

受賞者 油谷 晃佑 五洋建設(株) 東北支店与部沢トンネル工事事務所
発表論文 鉄道に近接する急傾斜斜面を有する坑口部の施工—国道106号 与部沢トンネル工事—

第87回(都市)施工体験発表会

「都市における各種制約下でのトンネル、地下構造物工事—新設、改良・再構築の施工事例—」

開催日:令和2年12月8日(火) 開催場所:機械振興会館(リモート併用開催) 発表者:6名

<最優秀賞>

受賞者 安井 克豊 清水建設(株) 土木東京支店土木生産計画部工事長
発表論文 供用中の滑走路直下を横断するシールド工事の計測管理—東京国際空港 際内トンネル他築造等工事—

<優秀賞>

受賞者 秦 裕彰 (株)奥村組 奥村・TSUCHIYA建設共同企業体清瀬シールド工事所所長
発表論文 巨礫混じりの礫層における超小口径・長距離シールド—東京都水道局 多摩北部送水管(900mm)新設工事—

<奨励賞>

受賞者 富樫 真美 東京地下鉄(株) 改良建設部第二工事事務所
発表論文 営業線地下鉄トンネルにおける新駅の設置工事—東京メトロ日比谷線虎ノ門ヒルズ駅設置工事—

7. 調査研究事業の概要

調査研究事業では、自主研究と受託(請負等)研究を実施した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、非常に制約のある中での委員会活動となったが、自主研究では、技術委員会のもと、トンネルや地下空間の建設及び維持管理に関する当面の課題や会員のニーズに応えることに力点を置き活動した。また、受託(請負等)研究では、4機関から6件の技術調査検討業務を受託(請負等)し、学識経験者からなる特別委員会等を設置・検討して成果を取りまとめ、委託者(発注者)の要望に応えた(受託業務一覧表:24頁参照)。

委員会毎の主な活動の内容は、以下のとおりである。

1) 技術委員会

委員長 西村 和夫

今日的な課題や会員のニーズを把握するための情報収集に努め、得られた結果からテーマを選定し調査研究を実施した。各小委員会の活動現況は、以下のとおりである。

(1) 共通技術小委員会

委員長 市場 一好

- ①ウェブサイトの資材機械検索リストの内容の充実を図るため、掲載様式を改めるとともに、関連会社への資材機械の掲載依頼を実施することとしたが、本年度は準備期間として、次年度に備えている。

(2) 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介

- ②前年度調査整理した「二酸化アルミニウムナトリウムを含まない新しい急結剤の実績調査」結果を「新しい急結剤の実績調査」として会誌に掲載した(会誌2020.6月号)。
また、委員会内で情報交換した「未固結ないし低固結の地山における小土被りでの山岳工法によるトンネル設計施工技術」についても「山岳トンネル小土かぶり部における設計・施工技術」としてとりまとめ、会誌に掲載した(会誌2020.9月号)。
- ③地山の変状対策に関連する技術として、変状を予測し得る新技術について情報交換を実施した。
- ④前年度に引き続き、ウレタン、シリカレジンに含まれる成分(MDI)の毒物指定についての情報収集と対応や課題について情報交換を行った。
- ⑤切羽観察における切羽観察のポイント、観察事項の記述方法、文例集等を作成し、「切羽観察担当者のための基礎知識Q&A(暫定版)」(PDF版)として、ウェブサイトの会

員専用ページに掲載した(2020年5月)。また、本成果を再編集し、会誌の連載講座「切羽観察担当者のための基礎知識Q&A」に掲載するための作業を実施した(会誌連載は2020年11月～)。

⑥前年度に引き続き、防・排水工に対する現状や実態等について情報交換を行うとともに、得られた情報を整理して、既刊の「山岳トンネル工法における防水工指針」(1996年発刊)の改善点や施工時の留意点等について整理を実施した。

(3) 都市トンネル小委員会 **委員長 葛西 孝周**

⑦「シールド工事における新技術」を取り上げて調査検討を実施することとしたが、本年度は準備期間として、次年度に備えている。

(4) 安全環境小委員会 **委員長 中野 清人**

⑧安全対策として「肌落ち」を、環境保全として「重金属」を取り上げて調査研究を実施することとしたが、本年度は準備期間として、次年度に備えている。

(5) 保守管理小委員会 **委員長 小山 宏**

⑨「山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編)」及び「山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)」について、前年度のアンケート結果等を踏まえながら、コロナ禍での講習会の実施方法を検討し、Zoomシステムを使用したリモート講習会を企画、実施した。(基礎編 2020年12月23日、実践編 2021年2月5日)

⑩会誌に連載した「トンネル維持管理に関するQ&A(1)~(10)」を再編集し、「トンネル管理技術者のための維持管理に関するQ&A」として2020年12月に発刊した。

⑪維持管理業務に関する新技術について、情報交換を行った。

2) 受託研究特別委員会(特別委員会)

4機関から6件の技術課題を受託(請負等)し、学識経験者からなる特別委員会等を設置し、委託者(発注者)の要望に応えるよう検討・実施した。

(1) 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会 **委員長 三上 隆**

前年度に引き続き(独)鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局からの「北海道新幹線、トンネル設計施工の研究9」業務を受け実施した。

(2) 効率的点検特別委員会 **委員長 西村 和夫**

前年度に引き続き(株)高速道路総合技術研究所からの「覆工コンクリートの効率

的な点検に関する基礎資料作成」業務（令和元年度業務、令和2年度業務）を受け実施した。

(3) 盤ぶくれ対策特別委員会

委員長 西村 和夫

（株）高速道路総合技術研究所からの「盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成」業務（令和元年度業務、令和2年度業務）を受け実施した。

(4) 改築設計施工技術特別委員会

委員長 砂金 伸治

（株）高速道路総合技術研究所からの「トンネル改築の設計施工技術に関する研究」業務（令和2年度業務）を受け実施した。

(5) 既設構造物と新設構造物との接合等に関する設計・施工法検討委員会

委員長 二羽 淳一郎

東京地下鉄（株）から「既設構造物と新設構造物との接合等に関する設計・施工法検討委員会に伴う調査・検討（令和元年度）」業務を受け実施した。

(6) 西武鉄道新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会

委員長 小山 幸則

西武鉄道（株）から「新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運営業務」を受け実施した。

令和2年度受託業務契約一覧

(金額単位:円、税込)

№	委託者	委託件名	金額	工期	担当委員会 (略称)	委員長	備考
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究 9	27,852,000	'19.12.4 ～ '21.7.30	特別 北海道新幹線	三上 隆	複数年契約 ('19・'20年度分)
2	(株)高速道路総合技術 研究所	令和元年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	20,119,000	'19.10.29 ～ '20.8.23	特別 効率的点検	西村 和夫	複数年契約
3	(株)高速道路総合技術 研究所	令和2年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	(契約済)	'20.10.28 ～ '21.8.23	特別 効率的点検	西村 和夫	複数年契約 (完成払)
4	(株)高速道路総合技術 研究所	令和元年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	37,775,229	'19.6.25 ～ '20.4.19	特別 盤ぶくれ	西村 和夫	複数年契約
5	(株)高速道路総合技術 研究所	令和2年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	(契約済)	'20.6.27 ～ '21.4.22	特別 盤ぶくれ	西村 和夫	複数年契約 (完成払)
6	(株)高速道路総合技術 研究所	令和2年度トンネル改築の設計施工技術に関する研究	(契約済)	'20.6.10 ～ '21.5.5	特別 改築	砂金 伸治	複数年契約 (完成払)
7	東京地下鉄(株)	既設構造物と新設構造物との接合等に関する設計・施工法検討委員会に伴う調査・検討業務	28,600,000	'20.4.10 ～ '21.3.19	特別 既設新設接合	二羽淳一郎	
8	西武鉄道(株)	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会営業務	96,800	'18.7.12 ～ '23.3.31	特別 西武新宿線	小山 幸則	複数年契約 ('20年度分)
令和2年度会計合計			114,443,029	(6つの特別委員会)			
次年度以降会計契約額			金額	工期			備考
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究 9	24,838,000	'19.12.4 ～ '21.7.30			継続 '19-'21年度
3	(株)高速道路総合技術 研究所	令和2年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	29,832,000	'20.10.28 ～ '21.8.23			継続 '20-'21年度
5	(株)高速道路総合技術 研究所	令和2年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	30,261,000	'20.6.27 ～ '21.4.22			継続 '20-'21年度
6	(株)高速道路総合技術 研究所	令和2年度トンネル改築の設計施工技術に関する研究	25,069,000	'20.6.10 ～ '21.5.5			継続 '20-'21年度
8	西武鉄道(株)	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会営業務	334,380	'18.7.12 ～ '23.3.31			継続 '18-'22年度
合 計			110,334,380				

注 工期欄及び備考欄の年は、西暦の下二桁で全て表記している。

8. 表彰(功績賞、功労賞)の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度から新規事業として「表彰制度」を設け、トンネル技術の発展に特に顕著な功績があったと認められる会員に「功績賞」を、また本会の発展に特別の功労のあった会員に「功労賞」を授与することとした。

令和2年11月12日から令和3年1月29日までの期間、令和3年度表彰の推薦を受け付けたところ、功績賞5件、功労賞2件の推薦があった。

推薦内容に関して、本会理事会で慎重に選考を行った結果、功績賞3名、功労賞2名の受賞者を決定した。

受賞者については、令和3年6月8日(火)に開催する本会定時総会において表彰する。

令和3年度表彰者

表彰種別	表彰者(敬称略)	表彰業績
功績賞 3名	今田 徹 (東京都立大学名誉教授)	日本の複雑な地質条件に合わせたトンネル技術の体系化に関する功績
	奥田 庸 (元日本鉄道建設公団、 東亜建設工業株式会社)	都市部における未固結地山を山岳工法で地表面沈下量を抑止しながら掘削する技術(工法)の開発と適用
	首都高速道路株式会社	横浜環状線建設事業におけるトンネル技術
功労賞 2名	久多羅木 吉治 (東亜建設工業株式会社)	長年にわたり本協会の各種活動に参画し、諸行事を積極的に実施するなど、事業発展に大いに貢献した業績
	株式会社土木工学社	日本トンネル技術協会誌「トンネルと地下」の永年の発行功労

注;表彰者の所属は、推薦時のものである。

9. 研究助成(研究助成部門、研究奨励部門)の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度から新規事業として「研究助成制度」を設け、トンネル・地下空間の建設及び維持管理に資する技術開発又は研究に対して、研究助成部門と研究奨励部門(40歳未満の若手研究者対象)の2部門で研究助成を実施することとした。

研究助成部門の助成額は1件につき単年度100万円以下、研究奨励部門の助成額は1件につき単年度20万円以下で、助成対象者は本会の個人会員であって、大学、高等専門学校及びこれらの附属機関に属する研究者としている。

令和2年9月8日から令和2年11月30日までの期間、令和3年度に助成する研究・技術開発を募集したところ、3件の応募があり、申請内容に関して、本会に設けた研究助成審査委員会(高瀬昭雄委員長)で、①研究の新規性・独自性、②研究計画の妥当性、③トンネル等事業への貢献度の3項目の評価を行い、3件すべての採択を決定した。

なお、研究計画が複数年にわたるものについては、毎年度、申請受付手続きを行い、再度審査するものとしている。

令和3年度助成研究

部 門	助成研究テーマ	助成額	研究者
研究助成部門 2件	支保的インバートの力学的メカニズムと設計指標に関する研究	100万円	砂金 伸治 (東京都立大学)
	既設トンネルのつらら対策業務の低減に資する研究	100万円	林 久資 (山口大学)
研究奨励部門 1件	地山物性の空間的な不均質性を考慮した山岳トンネル切羽の安定性評価	20万円	岡崎 泰幸 (松江工業高等専門学校)